

「車前草」(しゃぜんそう)この植物を知っていますか? 「大葉子」と書くこともあります。



この植物の名前は、「オオバコ」と言います。皆さんは、オオバコを知っていますか。見たことがありますか。

先生が子どもの頃は茎を絡めて引っ張り合い、切れなかった方の勝ちという「オオバコずもう」をよくやっていました。やったことのある人はいますか。

実はこのオオバコ、ちょっと変わっているところに多く生えているのです。どこだと思いませんか。学校の敷地に生えているオオバコの写真を撮ってきましたので、どんなところに生えているか考えながら見てください。



畑の前の砂利道の真ん中



100周年記念碑の前の道路の割れ目



玄関前階段の最上部



玄関前レンガタイルの隙間



オオバコは、人や車に踏まれるような場所に多く生えていますね。どうしてこんな場所に生えているのでしょうか。

その理由の一つが、「オオバコは、からだ(葉)がとても丈夫だ」ということです。葉がちぎれても中にあるすじが残り、栄養や水分を届けることができるので、踏まれても生きていくことができるのです。

もう一つの理由が、「オオバコの子孫(種)をちらばらせるため」です。オオバコの種が雨などにあたり濡れると、ねばねばしたゼリーみたいなものが種の表面を覆います。それで、くつの裏や車のタイヤ、小動物などにくっついて、いろいろな場所に運ばれていくのです。

小学校2年生の国語の教科書に載っている「たんぽぽのちえ」では、タンポポが種を遠くまで飛ばすための知恵が紹介されています。オオバコも種をちらばらせるために知恵を働かせているのですね。身近に生えている他の植物も、いろいろと知恵を働かせているかもしれません。いえ、その場所で生きていくためにたくさんの知恵を働かせていると思います。興味があったら調べてみてください。